

---

# 新婚203号室

岡崎 朱羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

新婚203号室

### 【Nコード】

N5409F

### 【作者名】

岡崎 朱羽

### 【あらすじ】

僕は透さんが好き。でも、男の子同士の恋は実らない。そんなある日、神様が僕を女の子にしてくれた。これで、二人は恋人になれる。瀬能夏紀がおくるラブラブえっちコメディー。

## 今日から夫婦

突然ですが、僕は『女の子』になってしまいました。

「透さん<sup>とちめ</sup>。おはようございます。朝ですよ。」

「ん〜。ああ、おはよう。空」僕の名前は広井 空。身長145cm 体重35kgそして声は高く童顔。どうみても女の子にしかみえない容姿である。ここは『私立無咲偉学園』の学生寮の一室。203号室での出来事。僕は同室者の紺野 透さんゆ起こす。『さん』って付いてるから先輩に思えるけど同級生です。付けたくなるような人です。

「透さん。朝ごはん出来てるよ。」

「そうか。今日も一段とかわいいな」

「透さん。僕は男の子ですよ〜」

「そうだった。そうだった。いっけね〜空があまりにも可愛かったから、つい」

「恥ずかしいよお。」僕はちよつと膨れた。

「でも、今日は本当に違うな。」

「実は、朝起きたら女の子の体になってました。だからね…」

「好きだ。そら」

「透さん。僕、ううん。私も」二人は唇を重ねた。

「「あ、遅刻だ〜!!」」「僕たちは急いで部屋を出た。」

学校にて。私は広井 空です。

急いで家を出たのだが間に合わなかった…。僕たちは違うしてしまった。

「おはよう。あなたたち遅刻よ」

「す、すみません。寝坊しました。」

「もう、ちゃんと気をつけてね」

「はい」我がクラスの担任『山中 林檎』先生。若くて綺麗な先生だ。

「そらちゃん。かわいいんだから、女子の制服着ない？」クラスの女子達も皆毎日言うんだ。勘弁してほしいんだけど…。

「あら？今日はなんかいつもと違うわね。ちよっといらっしやい」僕は違う部屋連れていかれた。

ああ、空が連行されたんで、俺こと紺野 透に視点を変えるぞ。連行された部屋きら

「あゝ！！」だの

「きゃゝ！！」だの聞こえて来るのはなんでだ…。まあいい。

「紺野君」

「ん？」隣の席の女子に話かけられた。なんつったつけ？えゝと、名前忘れたからいいや。

「なんだ？」

「なんか、広井くんかわいいね。女の子になっちゃったのかもねゝ」

「ああ、そうかもな」実際そうなんだよなあ。お、戻ってきた。なんか泣いてる。

「皆お待たせ 私の隣で泣いてる娘はそらちゃんです。朝起きたら女の子になってたんだって。」

「センサー！！広井は紺野の同室者です。」  
「あら。紺野くん そらちゃんを襲ったら殺しますよ。」  
「しねえよ！！」そりゃかわいいからそう思うけど、ダメだ。「私を襲わないで下さい。」ぐはあ！！襲ってくれと言ってるみたいじゃねえかあ！！ダメだ俺。もう死ぬ。これ以上のことはねえって。  
「キヤアアア！！男子達が鼻血出てる！！」え！？意識が遠退いて行く…。

出血多量で俺達男子は倒れたらしい。教室は血の海になたんだと。それは、後から聞いた話なんだけどな。

## 休日の二人

金曜日を過ぎ、待ちに待った休日一日目の土曜日がやってきた。

「透さん。起きてください。朝ですよ。今日は透さんの大好物のワカメのみそ汁ですよ」

「おはよう。そら」

「はい。おはよう」

「今日はお前の服などを買いに行くぞ。二着服を買ってやる。後は自分で買っただぞ」

「ありがとう。透さん好きよ」

「そら」

「透さん」

「そら」

「透さん」そこ！！某アニメの真似しない！！こりゃ失礼。私は作者の瀬能 夏紀です。以後よろしく。

デパートに着いた二人。まずは、下着から。

「透さん。こんなのどうかしら？」

「あ、ああ」俺は今ひじょーにマズイ。鼻血でそう…。だって、そらがかわいいから。てか、下着姿だよ？Cカップだよ。まあまあだが、なんせそらだから。ナイスです

透さん、気に入ってくれるかな？これは、勝負下着にするわ。それから何着か買い、いよいよ服だわ。

「これなんかどうだ？」

「そうね…。あ、これにする。買ってくれるんですか？」

「任せる」いくつか服を買った。

そろそろお腹が空いたので、ファミレスに入った。ちなみに、今私が着ているのは、ブラウスにチェックのスカート 髪型はツイテールです。透さんも喜んでくれてるみたい。よかった

それから映画を見たり、アクセサリーを見たり。私達は完璧なカップルです。一緒にすんでるから、夫婦みたいですけど 私は透さんさえいてくれたら幸せだね。将来私は透さんと結婚して、透さんの子供を生みたい。好きよ 透さん。

## 親訪問！？広井夫妻登場！！

「え！？今から？来るの？あ、ちよつと！！切れちゃった…。」

「どうした？」

「今からうちの両親が来るんです…。」

「…。」

両親？それは俺に挨拶しろという神からの試練だということのか！？だがしかし…『ピンポン！！』ええええ！？早くねえ！？マジで！？

「あ、お父さん、お母さん。いらつしやい。」

「あら 本当に女の子になっちゃったのね。」

「父さんはうれしいぞ！！実は俺、娘が欲しかったんだ！！」な、何か言わねば。

「すいませ〜ん。同室の紺野 透といます。」

「透くんね。母です。よろしくね。」

「父だ。よろしく」き、緊張するー！！

「ちつと、いいかい？」なんすかー！！

「家の娘に変な事したら殺す」

「はい…」もうムリ。絶対ムリ。神は俺を見捨てたのだ…。

「お昼出来たよ」透さんも早く。」

「ああ」

「本当、母さんの高校生時代にそっくりだ」

「えへへ」照れてる。かわいい…。それに、今日のチャーハンはうまい

「そろそろ聞かせて貰うわよ透くん。そらをどう思っているの？」キターー！！

「はい。好きです。愛してますだから、娘さんを下さい！！」言っ  
た。言っただけ俺

「「いいよ」「いいのお！？」

「家の娘を嫁に貰ってくれ」

「え！？いいの？」

「そら。いい男をもったわね。」いいんですか！？

「透さん……。ふつつか者ですが、私をお願いします。」言っただ……。これで二人は将来を約束されたのね。嬉しい

それから三時間後に両親は帰っていった。ちなみに、透の心臓のバクバクもなかなか納まらなかったそう。

幼なじみとバッテリー!! (前書き)

お待たせしました。

## 幼なじみとバツタリ！！

今日は私、広井 空一人で外出しています。自分の趣味で秋葉原にいます。

僕は、男の子の頃からアニメが好きでよくマンガを買ってた。実は、透さんもこっちの人間なわけだが今日は用事があって来てない。少し寂しいです…。

ああ、『魔法少女の麻衣ちゃん（作者が前に書いていたやつです）』です。かわいいですよ。でも、麻衣ちゃんも男の子だったんですよ。知ってました？（読んでた人しか通じねえよ！！）はいいとして同人誌探しつつと

アニメイト発見 人込みでなかなか向こうが見えないよお…。

「キャッ」誰かにぶつかっちゃった…。

「イテテテ。おい！！気をつけ…ろ？…あゝ！！」

「あゝ！！」「そ、空？」やばい！！今の僕は女の子…

「いえ…違います」

「いや、広井 空だろ？」

「人違いですよ。ほら、私女ですし」

「いや、その声と顔は空だ。…そうだな、そうだ！！お前は小学校六年の頃、同級生に告白されて、キスまでしてた。男同士で」

「いや…やめて。それは、違うの。」

「ま、しかし可愛くなっちゃって。」

「神様がきつと女の子にしてくれたんです。」

「そうか。しかし久しぶりだなあ。三年ぶりか？」

「そうね。数馬くんもずいぶんかっこよくなっちゃって」。彼は、幼なじみの木皿 数馬くん。久しぶりだなあ…。

「あのさ。つ、付き合ってる奴いるの？」

「うん。」

「そうか（何処のどいつだコラァ！！ぬっ殺す！！）」

こうして一人の男の初恋が終わった。そして今、この男の復讐劇が始まる！！（はじまんねえよ！！）。

透の親って凄くね？（前書き）

変態でスイマセン。

透の親って凄くね？

えー突然ですが今、生理中です。もう驚きですよ！！死ぬかと思ったのですよ。

「ふんふん 今日のおかずはハンバーグ あら？」下半身に違和感がある。なんか、生暖かくて、ぬるぬるしてて血みたい。ん？血？まさか！！はい、下半身みたら血まみれでした。驚いたね。ああ私は完璧に女なのね。あの人の子供が生めるのね。

「あの」

「ん？」

「私、生理きたみたいです。」

「本当に？よかった。将来結婚しよう」

「はい」うれしい。結婚しようという台詞と私に生理がきたという事実を喜んでくれた。もう、何も欲張らないわ。

突然だが今日、我が両親がくる。

「透。来ちゃった」出たよフリフリオーラでまくりな母『陽子』。外見年齢16歳。凄すぎるだろ。実は46だったりする。

「久しぶりだね。透」出ました。外見年齢20歳の父『啓介』。実は46歳。なんじゃ、この人たち！！実の親です。はい。

「久しぶりにきたわ。空ちゃん久しぶり」

「はい。叔母様」

「叔母様だなんて 義母様でいいのよ」「こういう人なんだよ。まったく！！」

「空ちゃん。私もできれば叔父様ではなく義父様とよんでほしいの

だが？」クソ両親どもめ！！

「そういえば女の子になったんですってね。これで問題無しだわ。もうやったの？」

「……まだです」

「ちゃっちゃかをやっちゃんなさい！！」いや、ヒステリックになられても。

「透。やるときは付けなくていいからな」

「はぁ」。一応俺、次期大企業の社長なんで金はしこたまアルンスヨ。

その夜、私たちはやりました。えへ

作者より。

変態でスイマセン。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5409f/>

---

新婚203号室

2010年12月9日05時42分発行